

春風秋霜 7月号

令和7年7月15日
島田市教育委員会だより
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 高校野球の応援に行ってきました。

7月5日(土)に、島田高校の野球応援に行ってきました。母校の野球応援に行くのは久しぶりでしたので、楽しみにして行ってきました。

対戦相手は、浜松城北工業高校で、島田高校の校長先生から、「強豪校です。」と聞いていましたので、どんな試合になるのか、期待していました。

試合開始のサイレンが鳴り響き、浜松城北工業高校の応援団のエールから始まり、島田高校のエール交換と続いていきました。私は、高校時代に吹奏楽部で太鼓をたたいていましたので、何度か島田球場に、野球の応援に出かけていました。

当時のことを思い出すと、暑い夏の日に一生懸命応援していた私は熱中症になり、島田球場の事務室にあったのでしょうか、和室の畳の上に寝かされて、治療を受けたことがありました。

高校生の皆さんと一緒に、島田高校の校歌を歌っている時には、自分も高校生に戻ったような不思議な感覚になりました。

高校生の頃と言えば、今から50年も前のことですが、当時の応援団は、たいへん怖く、入学してすぐに応援練習がありました。朝や昼休みの決まった時刻に、応援団の先輩が教室に入ってきて、応援練習をしました。高校生になったばかりの1年生にとっては、緊張する時間だったのを覚えています。今はそのようなことはなく、応援団長も女子生徒が頑張っていました。



島田球場には、多くの思い出が詰まっている人がたくさん来ているということを、改めて感じた私の夏の高校野球応援でした。

我が家の長男も、島田高校でしたが、当時の先生方が、本当に熱心で、大学受

験の時にも、個人的に相談に乗ってもらったり、論文のアドバイスをいただいたことを思い出します。島田高校の後藤現校長先生の話を知っていると、島田高校には、真面目な学生が多く、地道に勉強して、地方の国立大学に多くの生徒が合格しているということや、教員や公務員、医療関係の仕事を目指している生徒が多いという話を聞きました。

島田市内には、公立高校では、島田高校、島田商業高校、島田工業高校、ふじのくに国際高校。私立高校では、島田樟誠高校。専修学校では、島田実業高等専修学校があります。特徴のある高等学校が多く、それぞれの学校が大切にしている特徴をお知らせしていきたいと、改めて思いました。

静岡県教育委員会では、公立高校の在り方について、各地区で協議会を開いています。各地区にある公立高校は、地元の人材を育成する機関として大きな役割を果たしてきています。それぞれの高校の在り方について、今後、考えていく必要があると思います。

肘かけ椅子

「りんごの棚」の取り組み

～読書バリアフリー～

図書館課長 静賀史乃

島田市立図書館3館では、4月のこどもの読書週間に合わせ、「りんごの棚」を新たに設置しました。「りんごの棚」では、デイジー図書（録音図書）、点字・点訳図書、LLブック（やさしい言葉でわかりやすく書かれた本）、さわる絵本など、読みやすさに工夫をこらした本や触って楽しむ本といったバリアフリー図書を紹介しています。

「りんごの棚」のロゴマークが目印ですので、図書館にお越しの際は、ぜひ手に取って体験していただけたらと思います。

りんごの棚ロゴマーク



「りんごの棚」は1993年にスウェーデンの公共図書館で始められたもので、言語障害のある子供たちを支援するために作られたおもちゃのりんごが由来とのこと。読書にはいろいろな形の資料があることを広く知ってもらい、自分に合うもの

を見つけてもらいたいと、現在ではスウェーデンの図書館に広く普及しているそうです。日本では2013年、埼玉県の町立図書館に初めて設置されました。

2019年6月に施行された「読書バリアフリー法（視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）」は、誰もが読書できる、読書の方法を選べる社会の実現を目指しています。

紙の本をめくることが困難な人、文字の読み書きが困難な人、図書館や書店に行くのに介助が必要な人などいろいろな立場の人が楽しめるバリアフリー図書を知ってもらうことは公共図書館の大きな役割です。「りんごの棚」を通して読書バリアフリーの認識や理解が広がるよう、今後も取り組んでいきたいと思っています。

島田図書館 りんごの棚

